

議長記者会見（R3.12.9）

（報告）

お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

まず、第308回定例会採決結果について、ご報告いたします。

知事提出議案32件のうち、議案26件を可決・認定・同意・承認し、報告のみが6件でした。

議員発議案については、提出された5件のうち2件を可決し、3件が否決となりました。

請願については、受理された2件のうち1件は採択され、1件は不採択となりました。

議員派遣については、国内派遣2件が可決されました。

次に、本日、新型コロナウイルス感染症に対する県議会の対応の見直し案を各会派に示して、御了解をいただいたところであり、明日、10日から適用となります。

次回定例会においては、全議員が議場で審議できるように感染防止対策に万全を期していきたいと思っています。

また、本日、F16に関する決議が全会一致で提出され、可決されました。

大変大きな問題であり、今後、情報提供のあり方とか、国の動向をしっかりと注視していくつもりですので、皆様にも報道を通じて、しっかりと県民に情報を提供していただくようお願いいたします。

私からは以上です。

(質問)

○記者

コロナ対策ですが、明日から適用されるのは第1段階ということでしょうか。

(三橋議長)

県の対処方針がレベル0であること、議員、議員の家族、議会事務局の職員に発症者、濃厚接触者がいないという現状からみると、第1段階が適用されると思いますが、議会運営委員会において、しっかり、協議されることとなります。

(質問)

○記者

3段階に分けてコロナ対策を講ずるということですが、どの段階に該当するのかという判断は、いつ、誰がどのように行うのでしょうか。

(三橋議長)

基本的に、県の対処方針がレベル0やレベル1であれば、第1段階に該当すると考えていますが、議会、特定の地域の感染状況等を考慮しながら、定例会開会前の直前の議会運営委員会で判断することになります。

(質問)

○記者

数値的な目安はあるのでしょうか。

(三橋議長)

数値だけで判断した場合、適切な運用ができなくなるおそれがあるので、総合的に判断することになりますが、感染実態を踏まえた判断になると考えています。

(質問)

○記者

議長が判断されるということでしょうか。

(三橋議長)

私がお諮りして、議会運営委員会で決定することになります。

(質問)

○記者

県の対処方針がレベル0やレベル1であっても、議会関係者の感染状況等によっては、第2段階、第3段階に該当する場合もあり得るため、数値的な目安を定めなかったということでしょうか。

(三橋議長)

感染者が発生していない場合でも、濃厚接触者である可能性もあり、数値的な目安のみで判断した場合、その時点の状況に応じて臨機応変に対応することが困難なケースもあることから総合的に判断することです。

(質問)

○記者

F16の事故発生や飛行再開について、議会や議長への情報提供がなされなかったことについて、どのように認識しておられるでしょうか。

(三橋議長)

緊急性があるとしても、あまりにも不確定な情報が提供されること

は問題です。

本県議会では、議会改革検討委員会において、災害対策本部等が設置された場合、本部の会議内容が即座にメール若しくはFAXで各議員に提供されることで決定しており、まずは、その情報網を活用して情報を収集することになると考えています。

今回のF16事案では、災害対策本部は設置されませんでした。が、人家から20メートルから30メートルの地点に燃料タンクが落下しており、議員に対して情報提供が必要なかったかどうか、今後、検証していきたいと考えています。

今回の決議は、議会として強い意思を示すため、提出締切日を過ぎていましたが、全会派が一致して提出したものと認識しています。

私としては、その意思を重く受けとめて、議会に諮り、可決していただきました。

米軍、自衛隊、防衛関係者には県民の代表である議会の意思を重く受けとめていただきたいと思います。

(質問)

○記者

今後、国等への要請を行うといったことをお考えでしょうか。

(三橋議長)

まず、知事が、先日、岸防衛大臣と面会して、県民の思いをしっか

り伝えていきます。

本日、可決された決議について、どうすれば、国、米軍に適切に伝えていくことができるのか、その方法を考えながら、判断したいと考えています。

本日、可決された決議が、議会の強い意思であると受けとめていただければと思います。

(質問)

○記者

自民党会派が31人となり、県議会では圧倒的な多数となりましたが、議会運営に当たり、何か思うところはありますか。

(三橋議長)

無所属議員3名が自民党会派に入会しましたので、全議員が会派所属となりました。

これから、各会派間で、切磋琢磨した議論が活発に行われるものと期待していますし、是非、有効な議論をさせていただきたいと思っています。

(質問)

○記者

少数会派の意見にも耳を傾けていくということでしょうか。

(三橋議長)

これまでも、質疑時間については、少数会派に配慮した時間配分となっており、今回の会派異動に伴う質疑時間の配分についても最大限配慮しています。

この姿勢は、今後とも続けていきたいと考えています。

(質問)

○記者

今年1年を振り返って、何かありますでしょうか。

(三橋議長)

今年6月に議長に就任する前と後では、生活面で変化した部分はありますが、新型コロナウイルス感染症対策で奔走し、地域の声を聞いてきた1年であります。

振り返ると、米価下落、原油価格の高騰といった県民にとって厳しい出来事もありました。

一方、東京オリンピック、パラリンピックで本県にゆかりのある選手が活躍してメダルを獲得したり、7月27日には、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録が実現するなど明るいニュースもあり、来年以降につながる明るい兆しも見えてきています。

これから、本県が反転攻勢に出て行くには、様々な施策を有効に進める必要がありますので、来年度予算が提出される2月議会でしっか

り議論していきたいと考えています。

我慢に我慢を重ねた1年であると同時に飛躍のための準備もできた1年であったと考えています。

県民の皆様にも、その思いを共有していただき、来年は明るい1年を迎えることができるように頑張りたいと思います。